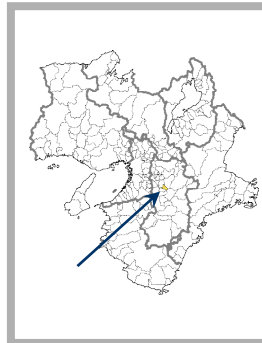


明日香村(奈良県):かめバス

地域住民と観光客の交通手段確保

人口	6,343 人	モード	コミュニティ バス
面積	24.08 km ²	法令	道路運送法 第4条および (旧)第80条
人口 密度	263.41 人/km ²	運営 主体	奈良交通・ 明日香村



■ 取組の背景

地域と交通の状況

【集落点在】【市町村負担の増大】【道路交通】

- ・ 明日香村は奈良盆地の南東部に位置し、飛鳥時代に都が営まれていた頃の文化遺産や埋蔵文化財が数多く存在しており、自然環境と一体となって歴史的風土景観を形成している。村の土地は約96%が農地及び山林が占めており、飛鳥駅周辺と岡地区に集中している市街地の他は、山地部に集落が点在する人口分布となっている。
- ・ 以前は村内の生活交通として循環バスとスクールバスが運行していたが、コースの重複や利用者が高齢者に限られるなどの課題を抱えていた。また、平成16年度以降は県からスクールバスへの補助金が打ち切られる見通しがあり、路線存続の危機にさらされていた。
- ・ 観光シーズンには、主要観光スポット周辺でマイカーによる交通渋滞も発生していた。

活用メニュー(制度・協議会等)

【公共交通活性化総合プログラム】

- ・ 平成14年度より国土交通省「公共交通活性化総合プログラム」を活用し検討を重ね、平成15年9月からは国土交通省「広域的な公共交通利用転換に関する実証実験(交通需要マネジメント等実証実験)」(平成20年3月現在、廃止)の補助を受けて、平成17年8月までの2ヵ年の計画で実証実験を進めてきた。平成17年9月から本格運行が開始されている。

■ 実現したサービス

サービス内容

【路線設定】【ダイヤの工夫】【ゾーンバスシステム】

- ・ 実証実験や検討を経て、周遊バス(愛称「赤かめ」)、循環バス(愛称「金かめ」)の2種類のバス系統が運行されており、「かめバス」と総称されている。
 - 周遊バス(赤かめ)は、近鉄飛鳥駅から村内主要遺跡を経て、近鉄橿原神宮前を奈良交通の中型バスが結んでいる奈良交通の運営する路線である。観光シーズンの春・秋にかけては、昼間を約30分間隔に増便し、観光客に対しても柔軟に対応している。運賃は、奈良交通の認可運賃(対距離制)となっている。
 - 循環バス(金かめ)は、村内各地域を村所有のマイクロバス(奈良交通へ運行委託)で循環しており、1日に7便運行している。運賃は、1回あたり100円の均一制で、満70歳以上、障害者、小学生以下は無料で利用可能となっている。運転業務については、奈良交通の運転手派遣センターの運転手を雇用している。
- ・ 一部の山間地域についてはマイクロバスによる運行が難しく、費用対効果も勘案した結果、コミュニティタクシーを運行することとした(橿原タクシーに運行委託)。また、飛鳥地区については従来運行していた循環バス路線が廃止されたため、地区在住の70歳以上の高齢者については高齢者優待乗車券を配布し、無料で乗車できる仕組みとしている。
- ・ 健康福祉センター・石舞台・飛鳥資料館前などの停留所を乗り継ぎターミナルとして、周遊バスと循環バスを相互乗り入れするゾーンバスシステムを導入している。

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】【市町村財政負担の削減】

- ・ 周遊バス(赤かめ)、循環バス(金かめ)ともに、交通社会実験前に比べて利用者が増加した。特に、循環バスでは、交通社会実験前は毎月の利用者数が約 400～600 人であったが、運行後は毎月の利用者が約 800～1,400 人とほぼ倍増している。
- ・ 循環バスとスクールバスの統合により、実験前目標運行経費よりも約 1 割の経費が削減された(周遊バスは収支率が約 46%と充分でなく、今後の課題となっている)。

負担

【市町村負担】

- ・ 実証実験後の周遊バス、循環バスの運行経費に対する村の負担金額は年間数千万円に上り、明日香村のような規模の自治体にとっては非常に大きな負担となっている。

■ プロセスと調整

目標設定

【プロセス:目標設定】

- ・ 村民アンケート、事業者ヒアリングに基づく需要予測・採算性検討と、従前のバス運賃などから総合的に利用率 25%、1 人あたりの利用料 300 円を達成すれば、現行経費を削減しつつ現在よりも質の高いバス・サービスを提供できると判断したため、これを目標と設定した。

■ 創意工夫・知見・教訓

鉄道との連携・スクールバスとしての機能

【創意工夫:ダイヤ・ルートの工夫】

- ・ 周遊バス(赤かめ)では、鉄道ダイヤと合わせたバスダイヤが設定されている。循環バス(金かめ)では、午前中は高齢者の外出に合わせた設定、午後は小学生の下校時刻に合わせた設定となっている。

柔軟なルート設定

【創意工夫:ダイヤ・ルートの工夫】

- ・ 周遊バス(赤かめ)では、早朝・夜間は住民利用のためにルートを変更したり、レンタサイクル場所にも接続したりするなど、柔軟なルート設定が行われている。

費用負担の方策検討

【教訓:費用負担のあり方】

- ・ 本格運行に移行するに当たっては、補助を受けなくても継続的な運行が行えるような費用負担面での方策を考えていく必要がある。

観光地における地域交通

【教訓:事業の持続困難】

- ・ かめバスの運行を財政面からだけで考えた場合、撤退という選択肢も考えうる状況である。その一方で、村では「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指した運動を行っており、そのシンボルとしても観光客の足としても、撤退は難しい。一度スタートした事業を撤退することは難しい面もあり、撤退に関する判断基準の策定も有効と考えられる。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：明日香村 電話 0744-54-2001

参考 URL：かめバス HP http://www.asukamura.jp/kame_bus/index.html

資料編

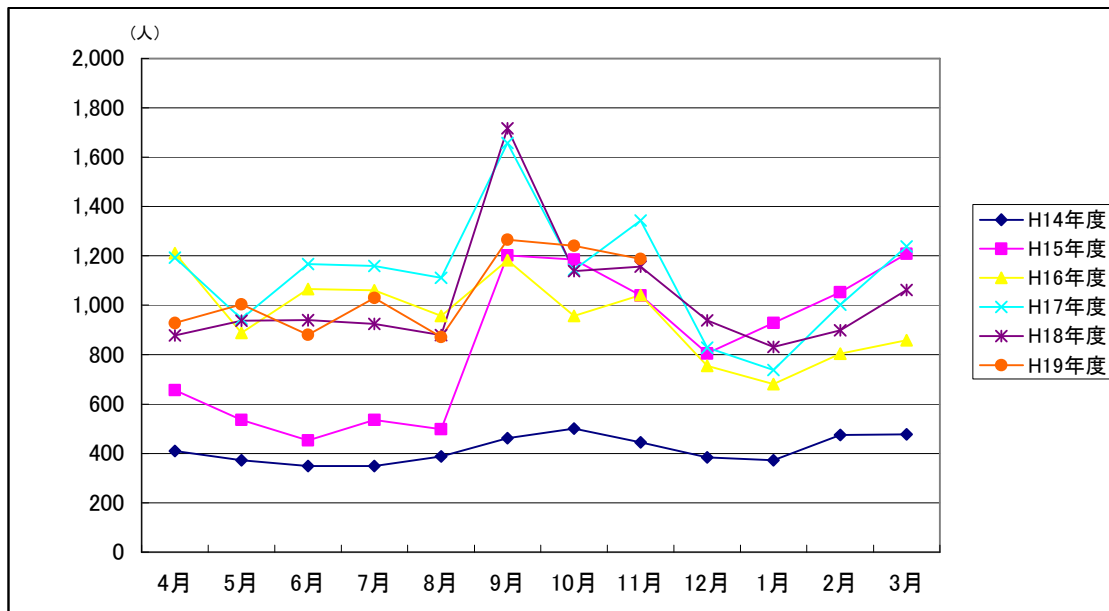
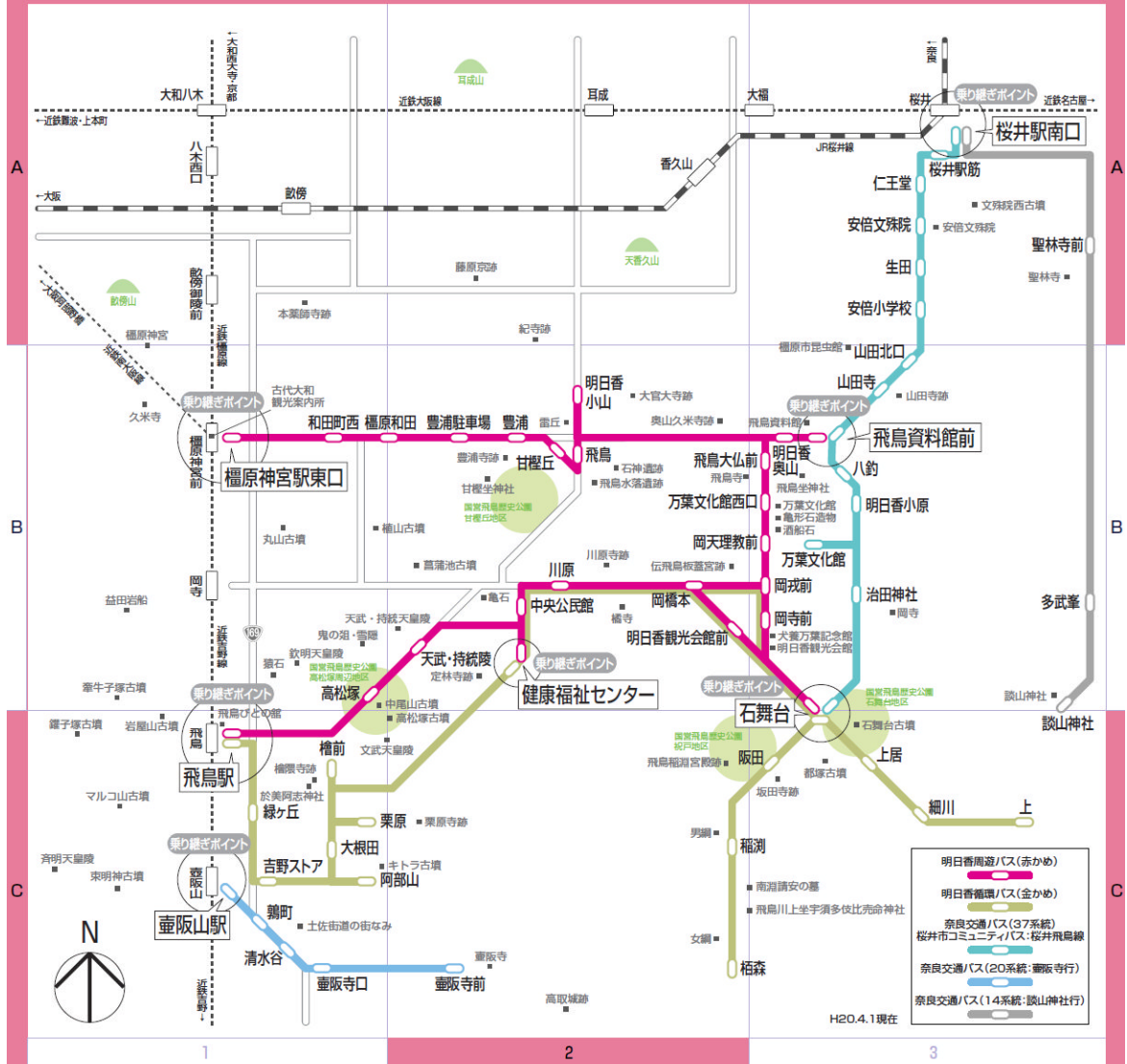


図. 循環バス利用実績

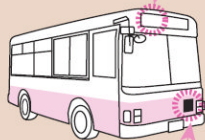
出典：明日香村資料

資料編

明日香めぐりバス時刻表



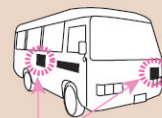
赤かめ
 ※奈良交通バスの行先案内表示に、「周遊バス」と明記しています



※奈良交通バスの車体正面に、赤い「かめ」のマークを取り付けています



明日香めぐりには公共交通機関をご利用ください



※マイクロバスの車体正面・側面に、金色の「かめ」のマークを取り付けています

図. バス路線図

出典: 「明日香めぐりバス時刻表」